

## 6. 長野県薬剤師会における薬局来訪者を対象とした血圧モデル事業への取組み —薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業の一環として—

高田弘子、日野寛明（一般社団法人長野県薬剤師会）

キーワード：健康支援、血圧対策、自己血圧測定、かかりつけ薬局

**要旨：**長野県薬剤師会では平成26年度・27年度の2年間、薬局の来訪者を対象に「ご自分の血圧をご存知ですか？」をキーワードに積極的に血圧に関する声掛けを行い、自己血圧測定・記録の啓発や、血圧の状態に応じた生活習慣改善支援、健診・受診勧奨を行う「血圧対策モデル事業」を実施した。その結果、合計40日間の実施期間に18,425人の県民に自己血圧測定の重要性を説明し、7,025人が薬局で血圧を測定し、878人に受診勧奨を、1,183人に健診を勧めることができた。アンケートの結果から地域住民の身近な薬局で自己血圧測定に関する啓発を実施することにより、来局者の自己血圧に対する意識が高まることが示された。

### A. 目的

少子高齢化が進む中、薬局には地域住民が身近で気軽に専門的な支援・相談が受けられる健康情報拠点としての機能が求められている。厚生労働省は地域包括ケアシステムの構築にあたり、地域住民の健康保持・増進に貢献する「真のかかりつけ薬局・薬剤師」を推進するために平成26年度・27年度に「薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業」を実施した。長野県薬剤師会では長野県より本事業の委託を受け、総合的かつ専門的知識を有する薬剤師養成のための研修、「血圧」「禁煙」「残薬」に関するモデル事業を2年間に渡り行った。ここでは脳卒中・心疾患などの主な危険因子である高血圧症の予防・早期発見・早期治療を推進することを目的として行った「血圧対策モデル事業」を中心に報告する。

### B. 方法

#### ①「健康情報拠点推進会議」の開催

長野県医師会、歯科医師会、薬剤師会、市町村保健師等をメンバーとした「薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進会議」を長野県健康福祉部薬事管理課が主管となって開催し、関係他職種の理解のもと本事業を開始した。

#### ②血圧に関する研修会の実施

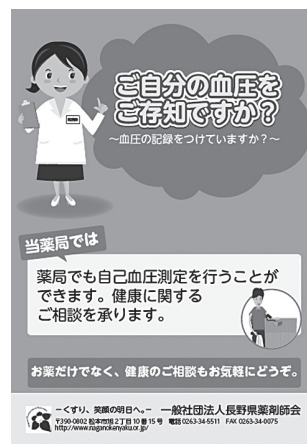
血圧モデル事業に取り組むにあたり、基本的な血圧に関する知識を習得するため、長野県医師会より講師を招き、高血圧ガイドライン・家庭血圧の重要性・薬局における相談応需の対応・かかりつけ医への受診勧奨等について中央研修会を開催し、各地域薬剤師会において伝達研修を行った。

#### ③血圧対策モデル事業の実施

来局者に「ご自分の血圧をご存知ですか？」と声掛

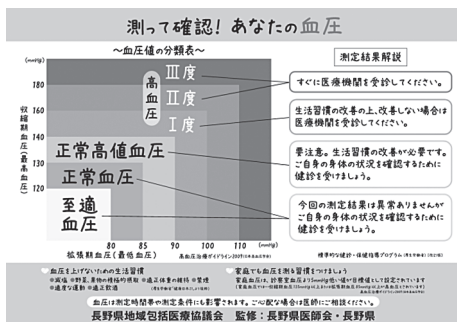
けし反応のあった方や、薬局に設置してある自己血圧測定器で血圧を測定している方を対象として、血圧に関するアンケートを実施した。アンケートでは、血圧の把握及び記録の状況、受診状態を確認し、血圧に関してすでに医療機関を受診している方は対象から除外し、自己血圧測定の重要性の説明のみ行った。医療機関を受診していない回答者に対して、薬剤師が自己血圧測定の重要性の啓発や、自己血圧測定・記録の促進、血圧状態に応じた支援を行った。特に血圧が高値の方には受診勧奨を、少し高めの方には健診を受け経過をみるように勧めた。説明後には来局者の意識の変化、そして薬剤師の対応を記入し、成果を検証した。1年目の平成26年度は説明による来局者の意識の変化を中心に、2年目の平成27年度は2か月間のフォローアップ期間を設定し、再来局した方の行動変容を調査した。実施薬局にはモデル事業ポスターを掲示して周知し、血圧の評価には長野県地域包括医療協議会で作成した高血圧ガイドラインに沿った血圧測定ポスターを活用させて頂いた。

＜モデル事業周知ポスター（薬局掲示用）＞



＜血圧測定ポスター＞

～長野県地域包括医療協議会で作成～



C. 結果

【平成 26 年度】

(県下全域(14 地域)の 517 薬局で実施 参加率 58.2%)

- 1ヶ月間のモデル事業期間内に、11,860 人に自己血圧測定の重要性を説明し、5,463 人(46.1%)が薬局で自己血圧測定を行った。854 人(15.6%)が I 度以上の高血圧であり、正常高値も 1076 人(19.7%)みられた。
- 2) 血圧の管理を医療機関で行っていない 3,292 人のうち健診勧奨者は 898 人(27.3%) 受診勧奨者は 490 人(14.9%)であった。
- 3) アンケート回答者 4,358 人(一部、血圧の管理を医療機関で行っている方を含む)のうち、2,998 人(68.8%)の方が自分の血圧を把握しているが、記録をしている方は 1,213 人(27.8%)に留まることがわかった。
- 4) <来局者の意識の変化・有用性の評価>

(アンケート回答者 3,292 人)

	あり	なし	不明
自己血圧測定への意欲	1,965 人 (59.7%)	659 人 (20.0%)	668 人 (20.3%)
生活習慣改善への意欲	2,101 人 (63.8%)	647 人 (19.7%)	544 人 (16.5%)
	有用	有用でない	不明
薬局での自己血圧測定の有用性	2,722 人 (82.7%)	167 人 (5.1%)	403 人 (12.2%)
薬剤師の説明の有用性	2,894 人 (87.9%)	46 人 (1.4%)	352 人 (10.7%)

【平成 27 年度】

(県下 8 地域薬剤師会 287 薬局で実施 参加率 58.6%)

- 1) 10 日間のモデル事業期間内に、6,565 人に自己血圧測定の重要性について説明し、受診をしていない 1,562 人(23.8%)が薬局で自己血圧測定を行った。
- 2) 薬局で自己血圧測定を行った結果、1 回目 401 人(25.7%)が I 度以上の高血圧であり、正常高値の方も 437 人(28.0%)と正常高値以上の方が半数以

上であった。薬剤師が必要に応じて受診を勧めるとともに血圧記録の重要性の説明や減塩等の生活改善を提案した。

- 3) 血圧の管理を医療機関で行っていない 1,562 人に対し、健診勧奨を 285 人(18.2%)、受診勧奨を 388 人(24.8%)に行った。
- 4) <再来局者の行動の変化>

(アンケート回答者 1562 人 再来局者 857 人)

	定期的	時々	記録なし
自己血圧の記録 (1 回目)	214 人 (13.7%)	362 人 (23.2%)	986 人 (63.1%)
	継続している	していない	
自己血圧の記録 (再来局時)	459 人 (53.6%)	398 人 (46.4%)	
	健診した	受診した	しない
健診・受診行動 (再来局時)	47 人 (5.5%)	334 人 (39.0%)	476 人 (55.5%)
	実施した	実施しない	
生活改善の実施 (再来局時)	447 人 (52.2%)	410 人 (47.8%)	

D. 考察

2 年間に渡る本モデル事業の結果、合計 40 日間の実施期間に 18,425 人の県民に自己血圧測定の重要性を説明し、7,025 人が薬局で血圧を測定し、1,183 人に健診を勧め 878 人に受診を勧奨した。多くの対象者が薬局で血圧を測定できることや、薬剤師から血圧に関する説明を受けることを評価している。また再来局時の調査により、薬剤師の説明により来局者に前向きな行動変容が見られることがわかった。長野県民の塩分摂取量は多く、健康寿命を延伸するために血圧管理は大きな課題となっている。県が展開する健康づくり県民運動「信州 ACE プロジェクト」においても毎日の血圧自己チェックを推奨している。本モデル事業の実施により、地域住民の身近な薬局で自己血圧測定に関する啓発を実施することにより、自己の血圧に対する意識が高まることが示唆された。

E. まとめ

薬局で積極的に血圧に関する声掛けを行い、自己血圧測定・記録の啓発や、生活習慣改善支援、健診・受診勧奨を行うことが、地域住民に有用な変化をもたらすことが示された。県民の健康づくりを支援するために、このような活動を継続的に行っていくことが必要である。

F. 利益相反

利益相反無し